

2023年度三郷サンサンハウス事業報告

(2023年4月1日～2024年3月31日)

【三郷サンサンハウスの三つの理念】

- 1 住み慣れたまちで暮らしつづけるために必要な支援を幅広く行います
- 2 利用者や地域から信頼される事業所・職員として成長します
- 3 安全・平等・平和な社会環境づくりの一端を担います

I 事業実施の方針

[1 はじめに]

約3年間、私たちの生活に大きな影響を与えてきたコロナ感染症が5類へと移行したことにより、社会の対応にも変化がありました。しかし高齢者に関わる事業である当法人としては、利用者の健康状態に留意して、従来と変わらぬ慎重な取り組みを継続しました。

地域に根差した介護事業所として利用者の暮らしを支えていくためには、人材が不可欠ですが、業界全体の人手不足の対応策として、安定した事業所経営によって職員の働きやすい環境を整え、優秀な人材の定着を図りました。

A.1 年間の取り組み

- 前年度に引き続き、基本賃金の引き上げを実施しました。また給与面だけでなく労働条件を整え子育てや介護といった各職員の家庭事情を配慮して、長く働き続けられる職場づくりを目指しました。
- 災害や感染症拡大といった緊急事態の際にも事業が滞ることなく、必要な利用者に必要な介護サービスが提供できるように、BCP(Business Continuity Planning・事業継続計画)を策定しました。また防災訓練も計画的に実施できました。
- サンサンハウスのInstagramを開設しました。事業所の紹介や活動内容、施設での日常の様子などを写真で紹介しています。近隣の利用者・住民だけでなく遠隔地の同種事業所との繋がりもできました。
- 職員がくるみ style を利用する場合は年会費をなくし、半額で利用できる体制を作りました。経営的には利用者数に比べて利用料が低下していますが、職員の健康維持を支援することでより長く働いてもらえる体制づくりに貢献しています。

B.経営改善への取り組み

- 職員の能力の活用と効果的な人員配置を心掛けることによって、コスト削減ができました。

○特定事業所加算を新たに取得し、事業所の収益を増加させ法人経営の安定の一助としました。

○介護福祉士をはじめとする資格取得を積極的に支援し、職員の資質向上を目指しました。

C.地域との関わり

○コロナ感染症拡大時期には実施できなかった地域との関りを再開しました。「おばあちゃんの駄菓子屋」は再開を待ち望んでいた子どもたちから喜ばれました。

○地元自治会の防災訓練に参加し、介護についての説明会などにも出席して、地域との連携を図りました。

○近隣住民に対して継続的にサンサンニュースの配布を行いました。事業所活動やお知らせなどを載せ、記事を通じて地域で親しまれ信頼される法人を目指しました。

[2. 特定非営利活動に係る事業]

(1) 介護保険法に基づくデイサービス事業及び第1号通所事業

今年度は実施計画なし

(2) デイサービスセンターくるみ (介護保険法に基づくデイサービス事業及び第1号通所事業)

A.1年間の取り組み

○コロナ感染症が5類になったことで、活動の制限は大きく緩和され、外出や外での飲食ができるようになりました。感染症対策としては今まで通り消毒の徹底やマスク着用は外せませんが、外出して、外での飲食は一層おいしく感じられ、皆様の笑顔も戻ってきたように感じました。

○人と会って話したり笑ったりする時間を持てるような空間を作ることで、くるみに来たいという気持ちになってもらい、運動の習慣を身に付けていただけるような支援をしています。日常生活で、控えていた場所に出かけたり人に会ったりするようになったとの声も聞かれました。

B.経営改善への取り組み

○専門的なリハビリの視点から支援を継続できていることで、新規の利用も安定しました。また、継続してやっていきたいという気持ちを持ってもらえたことで、休む場合は空いている日に振り替えていただくことができ、利用回数の向上につながりました。

○職員の指導体制においては、リーダー会議を数か月に1回実施し、それぞれの指導における困りごとを共有するなど、指導側の教育にも力を入れました。すぐに全員が同じレベルで仕事ができるわけではありませんが、サポートによる変化を見守っています。

C.地域との関わり

- 運営推進会議を再開し、来年 20 周年を迎えるサンサンハウスのイベントを計画
中であることを話しました。参加してもらえるイベントがあれば行きたいという嬉しい
意見ももらえました。

(3)ヘルパーステーション(介護保険法に基づく訪問介護事業及び第1号

A.1年間の取り組み **訪問事業)**

- 月平均で合計 60 名前後(内訪問ヘルパー利用者は 45 名、介護タクシーのみは
15 名)の利用がありました。1ヶ月の各支援の平均回数は、身体介護中心型が
90 回、生活援助が 195 回、介護タクシーが 85 回でした。
- 常勤 1 名(管理者兼サービス提供責任者)、非常勤 7 名(ヘルパー5 名、ドライバ
ー1 名、事務1名(サービス提供責任者))で活動しています。

B.経営改善への取り組み

- 信頼できる事業所であるために、ヘルパー間で密に連絡を取り合い、ケアマネジ
ャーへの報告・連絡・相談をしました。利用者の個別性を尊重した支援を心がけ
ています。
- サービスの向上を目的に、通院等乗降介助の運賃を値上げせざるを得ませんで
した。

C.地域との関わり

- 連携する居宅支援介護支援事業所 12 社のケアマネジャーから依頼を頂いてい
ます。情報共有を丁寧に行い、地域での介護の役割を担ってきました。
- 地域包括と連携をとり、利用者が地域の中での生活を安心・安全に過ごせるよう
努めました。

(4)小規模多機能ホーム萌の里(介護保険法に基づく小規模多機能型居宅

A.1年間の取り組み **介護事業)**

- 非常勤介護職員 2 名、常勤看護職員 1 名を採用をしました。子や親の看護や介
護などで急な対応が必要になったときにも休めるような働きやすく休みやすい職
場環境を目指しシフト変更の連絡は全員が共有して、助け合っています。
- 月 1 回の職員会議は開始時間を 18 時から 14 時に変更しました。全員が参加で
きるようになり、各委員会からの提案や情報共有、支援内容の検討がよりしやす
くなりました。毎月テーマを決めて研修をすることでスキルアップを図っています。
- 物品や書類の整理をし、不用品の処分や家具の配置換えなど 1 年を通して環境
整備に取り組みました。管理がしやすく効率よく業務ができるように改善でき
ました。

B.経営改善への取り組み

- 現在登録利用者 25 名を支援しています。通い、訪問、泊りのニーズに対応しな
がらそれぞれの望む生活を支えています。定員 5 名の泊りですが、個室は 2 室し

ありません。平均3名以上の泊りに対応するためリビングに介護ベッドを2台設置しました。囲みのカーテンも設置しプライバシーを確保すると、近くでにぎやかな声が聞こえるのは自宅に一人で寝ているより安心との声をいただいています。体調により日中横になる必要がある方も通いの利用がしやすくなりました。

- 念願の常勤看護師を採用し、非常勤看護師と2名の看護体制になりました。多様化する医療ニーズや看取り看護にも柔軟に対応できるようになり、看護職員配置加算を取得しました。また、介護職員は勤務しながら実務者研修に通えるよう、研修時間を勤務扱いとし資格取得を推奨したことで、今年度は3名の職員が介護福祉士の受験をしました。資格取得者増加によるサービスの質の向上とともに、サービス提供強化加算の取得を目指しています。

C、地域とのかかわり

- コロナ感染症は第5類へと移行し、感染対策は十分に行いながらも地域の方との交流の機会が少しずつ持てるようになってきました。

「おばあちゃんの駄菓子屋」を地域のおばあちゃんボランティアさんにも手伝っていただきながら再開すると、たくさん子どもたちが遊びに来てくれるようになりました。

女子会や寄り合いなど、地域の方が集う場所にもあづまやを利用いただいています。演奏ボランティアさんの訪問も再開し、一緒に楽しいひとときを過ごしています。

- すこやか体操や夜回り、防災訓練、防犯会議など三室地区の行事に引き続き参加をしています。三室自治会の和らぎの会へは2名の利用者が参加し送迎をしています。近隣の高齢者も参加がしやすいようお誘いの声掛けをしています。三室フェスティバルには準備段階の会議から参加し、「おばあちゃんの駄菓子屋」と「サンサンサロンの手作り小物」の出店をさせていただき大好評でした。また自治会のサロンでは介護保険についてのお話をさせていただきました。
- 近隣町の長寿健康課や地域包括支援センター、他の介護支援事業所との連携強化に努めました。紹介いただいた新規の利用者登録や緊急利用の依頼受け入れも積極的に行いました。今年度も看護学生の研修受け入れを行い地域密着事業所としての役割をお話しました。
- 運営推進会議を再開し、3か月ごとに委員の方と直接お会いして報告や相談ができました。小規模多機能についての質問なども活発にしてくださり、地域のニーズの把握にも努めました。

(5) 居宅介護支援事業所(介護保険法に基づく居宅介護支援事業)

A.1年間の取り組み

- コロナ感染症の5類への移行により、コロナ対応という業務の多くはほぼ終了し、利用者宅への訪問やサービス利用も、コロナ前の通常にほぼ戻り、明るさや

活気が戻ってきました。この一年は、利用者の声に耳を傾け、その人の動き辛さ、生活し辛さ、生き辛さに寄り添い、「利用者本位の支援」を行っていくためにはどうしたらよいか、対人援助職としての倫理・理念・価値観に立ち返り、それを身につけていくためにどうしたらよいかを考えてきました。

- 常勤のケアマネジャー(管理者)1名、常勤扱いの主任ケアマネジャー2名、非常勤のケアマネジャー1名の計4名で、月平均100数名の利用者のケアマネジメントを実施しました。4名がそれぞれに担当している利用者のサービス連絡調整を主に、各種申請手続き、アセスメント、ケアプラン作成、月次サービス利用予定作成、定期自宅訪問、モニタリング、入退院時の調整(入院時情報連携、退院時カンファレンス)、サービス担当者会議、緊急時の対応、新規依頼の受付・相談、入所の相談、前記に関する書類整備、認定調査等のケアマネ業務を行いました。月次の実績給付管理業務は事務局に担当してもらい、ケアマネ業務の省力化・効率化を図ることができました。
- 現任管理者が実務経験の期間を満了し、今年度秋から主任介護支援専門員研修を受講、年度末には主任ケアマネの資格を取得し、居宅として合わせて3人の主任ケアマネを在籍させることができました。
- 地域包括支援センター、生駒郡内ケアマネジャー合同連絡会、生駒郡地域ケア会議、地域の基幹病院(西和医療センター、近大奈良病院、ハートランドしぎさん病院、やまと精神医療センター)主催の、対面とオンラインでの研修会に積極的に出席しました。①様々な疾患(ガンを含む)とその最新治療情報②終末期医療③認知症の最新トピックス④精神疾患医療⑤入退院時の医療・介護の連携⑥成年後見制度⑦現状を取り巻く介護の社会問題(老々介護、8050問題、ヤングケアラー)について、広く学ぶ機会を得ました。
- 居宅内のケアマネジャーが、個々に支援・業務上、知識や技術で不十分と感じている点を自ら研修内容を選択し、受講し、成果を報告しました。(奈良県社会福祉協議会主催のアンガーマネジメント基礎研修、利用者理解力向上研修、OJT(on the job training)担当者実践研修)
- 週の始めに約1時間「居宅会議」を持ち、4人のケアマネジャーが個々に担当している利用者(新規、困難ケース、近況)について、情報を共有しました。支援に行き詰まり困っているケースに対しては、良い解決策ばかりを探すのではなく、皆で一緒にケースを振り返ることでケアマネジャー自身が気づきを得られるようにしました。
- 2か月に1回・約2時間のペースで、地域の居宅介護支援事業所(さくらんぼ、あかり介護)と共同の事例検討会・研修会を持ちました。自事業所だけでなく、他事業所の事例も共に検討することで、色々な視点観点から、個々のケアマネジメントに活かせる多くの気づきを得ることができました。地域の居宅介護支援事業所と連携し、相談したり助け合ったり、連携への一歩を踏み出せました。

B.経営改善への取り組み

- ケアマネジメントの質を維持しつつ、居宅内の収支を安定させるために、特定事業所加算(資格を持った職員の配置、質の高いケアマネジメントを実施するための事業所体制の整備等、運営基準を満たしていることが加算取得の要件。上記、1年間の取り組みを実施。)を取得し、居宅介護支援費に上乗せされる介護報酬収益を得ることができました。
- 紹介、相談のあった新規依頼については、基本断ることなく受けました。依然、要介護1~5の要介護者より、要支援1・2の要支援者が多いので介護報酬収益が伸びませんでした。

C.地域との関わり

- 利用者が住み慣れたまち(地域)で暮らし続けるための、ケアマネジャーとしての役割は何か?を常に考えながら支援にあたる努力をしました。具体的には、介護保険サービスだけでなく、家族間の協力、近所同士の助け合い、ボランティアの活用、自治会や自主グループへの参加等、インフォーマルサービスを個々のケアプランに組み込むことを意識していきました。
- 地域のクリニック(やわらぎクリニック)主催の在宅医療・介護の多職種勉強会(毎月第三水曜業務を終えてから)に10月から参加させてもらっています。毎回一つの症例・事例を集まった多職種(医師・看護師・介護士・療法士・薬剤師・ケアマネ等)で掘り下げ深め合うことで、互いの職種について理解し連携していこう、そして地域力を高めていこうとの主旨の会です。まだまだ慣れない場所ですが、ケアマネジャーとしての考えを発言していきたいと、4人でできる限り出席しました。

(6) 特定相談支援事業所(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する A.1年間の取り組み するための法律に基づく特定相談支援事業)

- 2名の利用者それぞれの計画作成・モニタリングを行いました。
- 介護保険サービスとは畑違いの障害福祉サービスに関わっていく中、知識や社会資源の情報を十分に検討し選択して利用者につなげることに限界を感じ始めました。利用者の利益を優先するならば障害福祉サービスとスピーディーにスムーズにつながるができるという障害福祉施設(就労支援施設や障害者グループホーム)に所属する相談支援専門員に担当してもらったほうが良いと判断し、事業所内で話し合っ外部の相談支援専門員に交代してもらうことになりました。

(7) 介護保険法に基づく訪問看護事業 今年度の実施計画なし

(8) サンサンサロン(自立支援事業)

A.1年間の取り組み

- 利用者ができるだけ楽しんで通えるように、毎月の制作提案や季節毎のイベント

を工夫しました。

- コロナ感染症が蔓延していた間お休みしていた麻雀サロンを 2023 年の9月末から、再開しました。

B.経営改善への取り組み

- 前年度に固定電話を廃止し、できる限りの経費削減を試みましたが、これ以上の経費削減は難しく、麻雀サロン再開により利用者の増加を図りました。また庭木の剪定に安価な業者を探して依頼しました。

C.地域との関わり

- 三室自治会主催のイベント「三室フェスティバル」へ出店して、手作り小物を販売しました。たくさんの方に買っていただき好評でした。

(9) 高齢者の家あかねの里 (共同住宅事業)

A.1年間の取り組み

- 1 年を通し入居者の状況や変化に気づき、日々情報を交換し迅速に対応することができました。
- 入居者の要望を聞き、思いに寄り添い話をするように努めました。
- 介護方法や入居者への接し方を話し合い、介護技術を他の事業所、管理者からのアドバイスにより支援に役立てる事ができました。
- 家族と密に連絡を取り、入居者のご様子を伝え相談することができました。

B.経営改善への取り組み

- エアコン・冷蔵庫・その他電化製品の寄付を戴き、修繕が必要な物を交換することができました。

C 地域とのかかわり

- 居室の空き状況や申し込みについての問い合わせを頂きました。地域の方が気軽に相談できる場所であると感じています。

(10) 24時間生活支援事業(たすけあいの会)

A.1年間の取り組み

- 今年度、月平均では7名、36回程度の利用がありました。
不定期・定期のゴミ出し、掃除、庭の掃除などの介護保険ではできない支援などでも利用していただきました。
- 訪問ヘルパーやサンサンハウスの職員が兼務して活動しました。

B.経営改善への取り組み

- 体調や生活での困りごとの相談に対しての助言を行うなど、介護事業所のメリットを活かした支援を行いました。

C.地域との関わり

- 地域にある介護事業所として、介護保険の利用ができない方にも安心して利用

していただけるよう努めました。

(11) ボランティア育成及び広報・研修事業

A.1年間の取り組み

- 感染症対策を取りながら、事業所全体を対象に“身体の動かし方”、“利用者本位のサービス”、“口腔内ケア”といったテーマで年3回の研修、新しく入職した職員を対象にした2回の新任研修の他、各事業所の研修を随時実施しました。
- 法人のインスタグラムを開設して、各事業所の日頃の活動内容を随時お知らせしています。地元だけでなく全国の介護関係の事業所からフォローしていただいています。
- 高齢者施設としては、今後も慎重な判断が必要です。コロナウィルスやインフルエンザ感染症対策として、過去に実施していたボランティアの方々の飲食を伴う親睦会などは、なかなか実施に至ることができない一年でしたので、感謝の気持ちの記念品をお渡ししました。

B.経営改善への取り組み

- 年2回、1月と7月に三郷町を主とした近隣住民にサンサンニュースを3,000部～6,000部配布しています。毎号各事業所の管理者や職員が法人の活動やお知らせしたいことなどを書いています。定期的に発行することで地域の介護事業所として周知していただく広報活動の要となっています。また編集、折作業、配布にあたっては、職員、利用者、ボランティア等の協力を得てローコストで発行しています。

C.地域との関わり

- 本部建物前に設置している掲示板を使い、法人の活動やお知らせ、人材募集などに役立てています。地域住民に目を止めてもらうために季節に応じた装飾をしています。

(12) 福祉タクシー（外出支援事業）

A.1年間の取り組み

- 送迎は介護保険利用が主で、保険外の福祉タクシー利用回数は月平均4回程度でした。
- 利用ごとの清掃、消毒、換気を徹底し、安全に気持ちよく利用いただけるよう努めました。

B.経営改善への取り組み

- 普通自動車二種免許と介護福祉士資格を持つドライバー1名、登録車両1台で送迎を行いました。安全運転と安心できる乗降介助技術で、また利用したいと言っただけのような対応を心掛けました。

- 利用は予約制ですが、可能な限り緊急利用にも対応しました。
- 燃料代や車両維持にかかる諸経費の高騰により、福祉タクシーの運賃について値上げをせざるを得ませんでした。

C.地域との関わり

- 三郷町、平群町、王寺町のタクシー券が利用できるため、地域の方からの依頼がありました。

(13) 給食サービス事業 今年度は実施計画なし

(14) グループホーム事業 今年度は実施計画なし

(15) 地域交流支援事業

A.1年間の取り組み

- 物品販売事業を地域との交流の一助としています。本部建物玄関フロアでは通年、新鮮野菜やお茶、サンサンサロンの利用者による手作り小物といった品質の良い品物を安価で提供しています。事業所の利用者だけでなく、近隣住民が購入に立ち寄ってくださることもあり好評です。

B.経営改善への取り組み

- 介護事業外の活動として、レッドコードを使った運動・リハビリ、ヨガといったプログラムを継続的に行いました。
- コロナ感染症の流行により実施していなかった萌の里の「おばあちゃんの駄菓子屋」を再開しました。

C.地域との関わり

- 萌の里でのクリスマス会を始めとしたイベントでは、地元のボランティアグループが楽器演奏などを披露していただき利用者や職員に好評です。
- 自治会主催のイベントや防災活動に参加して、地域の中の介護事業所として交流を図りました。
- 介護保険外事業である「くるみ style」では利用者の運動療法による身体状況の維持向上を支援し笑いのある楽しい雰囲気での運動を提供できました。

[3. その他の事業]

(1) 物品販売事業

A.1年間の取り組み

- 地元農家の提供する有機栽培のほうじ茶・安価で美味しいとファンの多い緑茶を取り寄せて販売しています。職員や利用者だけでなく、近隣住民で購入を希望

する方もいて、年間を通じて、安定した人気がありました。

- 朝採れ野菜を、本部建物玄関やサンサンサロンで提供し市場より安価だと喜ばれました。

B.経営改善への取り組み

- 季節に応じたサンサンサロンの手作り小物やサンサン会員の方のハンドメイドの作品を随時展示販売しました。収益はサロンのクリスマス会などで活用しました。

C.地域との関わり

- 地元の自治会主催のイベントに初めて参加しました。たくさんの方にサンサンハウスの名前を知ってもらう機会となりました。